

事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	企画部政策企画課		■担当係	政策マーケティング係
■評価事業名称	基礎自治体連携事業			
■事業開始年度	平成27年度			
■評価事業コード	010100 - 401	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	06 市民が主役となり企業や行政と協働するまちづくり		
	■基本施策	06 広域行政の推進		
	■施策	01 広域行政の推進		
■事業の類型	06 負担金・補助金(任意・ソフト事業)		■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの			
■法令等の名称				
■関連計画の名称				
■事業の目的と概要	荒川区等で構成される幸せリーグへの負担金(同じ問題意識を共有する基礎自治体同士のネットワーク)及び実務者会議の出席。特別区との関係性の強化及びまちづくりにおける議論の在り方を広げるもの。総合戦略等への幸福度指標の活用検討を構成自治体で行うもの。			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成29年度事業計画	平成29年度事業量実績
01	基礎自治体連携事業	市内外の住民	○幸せリーグ総会1回 ○幸せリーグ実務者会議 3回 ○定住自立圏職員研修会 2回	○幸せリーグ総会1回 ○幸せリーグ実務者会議 1回 ○定住自立圏構成自治体ワークショップ 2回 ○定住自立圏構成自治体課長級職員合同研修会 1回

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
直接事業費		15	145	253	
人件費			75	76	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト		15	220	329	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	26年度	27年度	28年度	29年度	指標の説明
01	幸福に関する研究		実務者会議での研究	実務者会議での研究	実務者会議での研究	各グループで幸福に関する研究を行う(2か年単位)

事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

○幸せリーグについて、29年度からは「幸福度調査の政策反映」をテーマにグループ研究を実施し、具体的な方向性をとりまとめた。(概要については30年度総会にて中間報告)

問題点・課題等

○幸せリーグについて、実務者会議の開催数・時間が限られていることから、グループ研究自体が「浅い」ものとなっている。当該研究を踏まえた各自治体独自の深掘りが必要である。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響

- 大きな不利益やリスクが生じる
- ある程度の不利益やリスクが生じる
- 不利益やリスクは小さい

4. 市民生活・企業活動への影響

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持の向上に必要
- 市民生活・企業活動の維持の向上への影響は少ない

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

○幸せリーグについては、主催自治体との関係を考慮し、29年度と同様に負担金(10千円)のみの支出とする。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了